

教育の

現場から

第40回

社会や経済の急激な変化は、地域や家庭、そして教育にも大きな影響を与え、子どもを取り巻く環境にも及んでいます。ここでは、ますます複雑かつ多様化してきている教育の現場について、お伝えしていきます。

秋田洋和

あきた・ひろかす

1966年生まれ。進学塾講師、高校受験数学科・中学受験算数を教える。都内公立中高一貫校土曜講座の授業や、私立中学の勤務コンサルタント時、塾の教室を飛び加えて増く活躍中。著書に「目指せ！子どもの育て方」(PHP文庫)がある。

「理系の学校選び」で知っておきたいこと

4月号で理科に関する話を紹介しました。今後小学校で理科の授業が増え、関心を持つ児童が増えたとしても、中学・高校でどう深めていけるのかという点については、保護者の皆さまには見えていない部分も多いと思います。そこで今回は「スーパーサイエンスハイスクール（SSH）」を紹介したいと思います。

まだなじみが少ないと思いますが、社会情勢の急激な変化に伴い、お子さまの進学先選びの一つの指標として今後ますます注目を集めることが予想されますので、今回はその中身について紹介していきます。

◆ スーパーサイエンスハイスクールの内訳

「スーパーサイエンスハイスクール（以下SSH）」とは、2002年（平成14年）度にスタートした制度です。この2002年は「ゆとり教育」と呼ばれる学習指導要領の改訂（学校週5日制のスタートや学習内容、授業時間の削減等）が始まった年でもあります。が、文部科学省は、「ゆとり」の一方でこうした「研究重点校」の設置を並行して行ってきたのです。

具体的には、全国の高等学校（国立・私立）の中から先進的な理数教育を実施するところを選び、大学との共同研究（研究者・指導者を派遣する、大学での体験授業実施等）を行ったり、国際性を育むための取り組み（英語での理科授業実施、国際的コンテストへ

SSH指定校（全145校）都道府県別の内訳

1校	2校	3校	4校	5校	6校	8校	9校	12校	学校数
宮崎県	高知県 佐賀県	大分県 鹿児島県	宮城県 高知県 静岡県 和歌山県	茨城県 奈良県	福岡県	埼玉県 愛知県 兵庫県	東京都	大阪府	都道府県
	新潟県 三重県 山口県	青森県 新潟県 三重県 山口県	北海道 群馬県 長野県 静岡県 和歌山県	茨城県 千葉県 福井県	京都府 岡山県	埼玉県 愛知県 兵庫県	東京都	大阪府	都道府県
	徳島県 熊本県	青森県 岩手県 秋田県 新潟県 山梨県 岐阜県 三重県 島根県 広島県	北海道 群馬県 神奈川県 石川県 滋賀県	茨城県 千葉県 福井県	京都府 岡山県	埼玉県 愛知県 兵庫県	東京都	大阪府	都道府県

(の参加等)を推進したりすることを通して、将来国際的に活躍できる科学技術系人材の育成を目的としています。

SSH指定校は2002年度は26校からスタートし、規模の拡大に伴い2011年度現在145校が指定されています。(P6表)

関東・近畿地方の学校が多くなっているものの、地域バランスも考慮して決定されています。

指定校の選考においては研究内容・方法や研究計画・体制などが審査されるため、おおむねその地域を代表する進学校などが中心に選ばれるようです。例えば関東では「東京都立日比谷高等学校」や「埼玉県立浦和第一女子高等学校」など、近畿では「京都市立堀川高等学校」など、全国的に名の知れた学校が選ばれており、その審査の厳しさも手伝って、国公立・私立を問わずその学校のステータスを示す一つの指標として定着しつつあります。

◆ SSHはさらに強化されていく

「ゆとり教育」のスタートと時を同じくして、「科学技術分野の人材養成」を目標に始まったSSHですが、事実上「ゆとり教育」が終了した現在でも、その規模は拡大され続けています。SSHに指定された学校をさらに強化する「コアSSH」という制度も200

9年からスタートし、2011年度では全国29校が、「地域の中核的拠点」と位置付けられたり、「海外の理数系教育重点校との連携」を掲げて教育にあたりたりするなどの役割を与えられています。

指定された学校の中には、「東京都立小石川中等教育学校」や、「横浜国立横浜サイエンスフロンティア高等学校」といった学校の個性を前面に打ち出した新設の人気校も含まれており、今後受験生の動向に影響を与えるポイントの一つになってくることが予想されます。

◆ SSHで勉強する意味

SSHに指定された高校だからといって、在学する生徒全員が理数系重視の勉強に日々邁進するわけではありませんので心配は無用です。ほとんどの学校では学年指定や希望制など、受講生徒になんらかの制限や枠を設け、普段の勉強や生活と両立させることに気を配っています。SSHの勉強は大学レベルの講義や研究・プレゼンテーションですから(注参照)、その準備に要する時間や負担もかなりのものになります。

そのため学校で行われる普段の授業・テストや部活動との両立まで考えると、時間の使い方に工夫が必要で

から、すべての生徒が受講できるものではないと考えるのが一般的です。しかし、最終的な目標が大学入試合格ではない以上、自分自身の将来の可能性への先行投資としてチャレンジする価値は充分にあるのではないだろうか。

昨今の就職情勢の変化からもわかるように、「国際社会で通用する人材の育成」は日本にとって急務であり、特に科学技術分野においては緊急度が高いとされているため、20年後30年後の日本を支える人材としてこうした学校で勉強した生徒への期待度は年々高まっています。お子さまを将来理系に進ませたいとお考えであれば、こうした学校もチェックしておくことをお勧めします。

〈注〉

京都市立堀川高等学校では、専門科目として「探究基礎」・「自然探究」という授業を用意し、京都大学大学院・京都大学数理解析研究所・大阪大学大学院といった大学・研究機関と連携している。

横浜市立横浜サイエンスフロンティア高等学校の生徒が行った平成22年度生徒研究発表会のテーマは「動物細胞培養における血清の影響について」